



学校現場と向かい合い、理論と実践を学ぶ中で、
より一層自分を伸ばすことができる場、
それが本学の大学院です

更に自分を磨く！

宮城教育大学大学院教育学研究科は、現在、より高いレベルの教育実践力の養成を目指す「専門職学位課程（教職大学院）」と、各教科の専門性の深化を目指す「修士課程」の2つの課程から構成されています。この2つの課程の下、教職としての高度な専門性を備えた人材を育成し、学校現場の複雑化・多様化する課題・問題の解決に寄与するとともに、地域、日本及び世界の教育の発展に貢献する人材を養成することを基本理念としています。学部卒業生はもちろん、留学生、自主研修教員、そして教育職員普通免許状（一種）保持者や現職教員など様々な立場の方々に開かれ、更に自分を磨く場として、理想的な環境となっています。

■ 専攻及び専修（平成29年4月現在）

課程	専攻および専修	分野	
教育学研究科 修士課程	高度教職実践専攻		
	特別支援教育専修 (1専修)	特別支援教育専修	視覚障害児教育 発達障害児教育 聴覚・言語障害児教育 病弱・運動障害教育
		国語教育専修	国語科教育 国語学 国文学 漢文学 書道
	教科教育専攻(9専修)	社会科教育専修	社会科教育 歴史学 地理学 法学・政治学 経済学・社会学 哲学・倫理学
		数学教育専修	数学科教育 代数学 幾何学 解析学
		理科教育専修	理科教 物理学 化学 生物学 地学
		音楽教育専修	音楽科教育 器楽 声楽 作曲 指揮 音楽学
		美術教育専修	美術科教育 絵画 彫刻 デザイン・工芸 美術理論・美術史
		保健体育専修	保健体育科教育 体育学 運動学 教育保健学
		生活系教育専修	生活系教育 電気 機械 木材加工 栽培 情報/食物学 住居学 保育学 被服学
英語教育専修		英語科教育 英語学 英米文学	

■ 平成29年度 入学者選抜実施結果

課程	専攻および専修	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数	
教育学研究科 修士課程	高度教職実践専攻	32	46	38	36	
	特別支援教育専修	特別支援教育専修	3	4	4	3
		教科教育専攻	国語教育専修	22	5	5
	社会科教育専修		6		4	3
	数学教育専修		4		4	4
	理科教育専修		7		7	6
	音楽教育専修		5		5	3
	美術教育専修		3		3	3
	保健体育専修		0		0	0
	生活系教育専修		2		2	2
英語教育専修	4	2	2			
小計	22	36	32	26		
計	25	40	36	29		
合計	57	86	74	65		



■ 大学院生からのメッセージ

目指すべき道

私は教職大学院に入学した当初、様々な不安を抱えていました。大学の卒業と同時に教員として働く友人の話や私の選んだ道は本当に正しかったのか、回り道をしているのではないかと悩んだ日々もありました。しかし、これも自分で選んだ道です。今は、大学時代に学んだことを整理し、教材研究の仕方を改めて学び、深める期間だと思っています。進学した結果はすぐ形になるとは限りませんが、5年後、10年後の私をきっと助けてくれると信じています。



教職大学院2年
ストレートマスター

千葉 聡一郎 さん

教職大学院の魅力は、現職の先生方と一緒に学生生活を送れることだと思います。初めは緊張もあり、近寄りがたく感じていましたが、先生方はとても話しやすく、私たちを気遣ってくださるばかりです。そのため、現場経験のない私たちストレートマスターが研究について悩んでいる時には、経験に裏打ちされた的確なアドバイスをしてくださいます。時には、人生についての相談にものっていただき、私が将来目指したい教員像を肌で感じイメージすることができました。

正直、教職大学院の2年間は想像を超える厳しさがあります。しかし、力強い教授陣や先輩方にサポートしていただき、日々前進していると感じることができます。将来のビジョンをもった教員を私たちと一緒に目指しませんか。

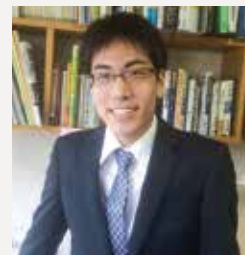
教職に開かれた 修士課程

私は大学院の社会科分野において自然地理学を中心に学んでおり、修士論文では野生鳥獣が林業に及ぼす影響を、地形的観点と関連させて明らかにしようとしています。

元々、学部4年の春まで大学院に進む予定はなかったのですが、4年次の教育実習の際、授業や学校生活で子どもたちと関わることで、教育のプロである教師に必要な専門、一般の教養が不足していることを痛感し、大学院修士課程に進むことを決意しました。

修士課程は研究職への1ステージだと思われがちです。しかし、各課程の教授陣との密度の濃い少人数講義により得られる知識や技能、学部よりも高度な内容が求められる修士論文に取り組むことで培われる問題解決能力など、実力のある教員には欠かせないスキルを身に付けることができることは修士課程に進むメリットの1つです。また、日々の講義以外にも、空いた時間を利用して自分の専門分野だけでなく、興味・関心に沿った学問を行うこともできます。

修士課程は、より専門的な知識、技能を持つ教師を育てる場ですが、しかしそれだけを身に付けても優れた教師とは言えません。教職とは関わりが薄そうなのであっても、幅広い教養、スキルを備えた教師が、より人間として深みのある教師であり、そのための時間を用意しているのが、大学院という場所だと思います。



教科教育専攻
社会科教育専修2年

大堀 真輝 さん